

近現代史(27) 帝国主義と列強の展開① 「帝国主義とは何か？」

【帝国主義】

1. 第二次産業革命

(1)産業革命

①[1. 第一次産業革命]

・18世紀イギリス。[2. 石炭]と[3. 蒸気力]を動力源に軽工業や製鉄業の分野で起こった。

②第二次産業革命

・19世紀後半合衆国とドイツ。[4. 石油]と[5. 電力]を動力源に使い、重化学工業・電気工業・アルミニウムなどの非鉄金属を生み出した新しい工業や技術。

(2)独占資本の形成

■第二次産業革命の工業部門では、巨額の資本が必要。

↓

■資本を提供する銀行と結びついた少数の巨大企業が市場を支配する。

①[6. 独占資本]…少数の大企業が生産を独占するカルテル・トラスト・コンツェルン

②[7. 金融資本]…株式会社の普及を通じて産業資本(メーカー)と銀行資本が一体化！

(3)人口移動

①[8. 都市化]…急速な工業化により工業労働者数の需要が増大。農業や中小企業を圧迫して人々の生活環境や環境を激変させる。

②[9. 移民]…伝統的基盤を破壊された多くの人々が他国へ移住。19世紀後半からは、ヨーロッパから合衆国への移民が急増した。

2. 帝国主義

(1)植民地の重要性の見直し

・主要国の資本主義が発展 → 相互競争が激しくなる → 植民地の重要性の見直し

・資源供給地、輸出市場

□商品輸出に加えて[10. 資本輸出](外国政府への借款供与や鉄道建設への投資など)が活発化

(2)1870年代以降→不況が続く。本国と植民地との結びつきを緊密にし、まだ植民地となっていない地域を占有しようとする動きが高まる。

背景
事情

- ・ヨーロッパ近代文明の優越意識と非ヨーロッパ地域の文化への軽視
- ・非ヨーロッパ地域の制圧や支配を容易にする[11. 交通・情報手段]の発達
- ・[12. 軍事力]が圧倒的に優勢

(3)1880 年代以降 →諸列強、[13. アジア・アフリカ]に殺到し、植民地や勢力圏を打ち立てる。

(4)列強の格差

○上位

▶工業力や資本力のある[14. イギリス]・[15. フランス]・[16. ドイツ]

○下位

▶[17. 多民族国家]として民族運動に直面したロシア・オーストリア

▶工業化が遅れていた[18. イタリア]

3. 世界の再分割とベルエポック

(1)ドイツの膨張

■世界の再分割…ドイツの[19. ヴィルヘルム 2 世]が即位して世界政策を展開。

↓
他の列強の植民地や勢力圏の再配分(再分割)を要求して、イギリスとの対立を深める。

■[20. 列強間の帝国主義的対立]…第一次世界大戦勃発の大きな要因となる。

※だが、第一次世界大戦前の半世紀間ヨーロッパ中心部では戦争が起こらず

↓
☆列強間の紛争や対立の場は、アジア・アフリカ地域、バルカン半島などの周辺部に限定されていた。

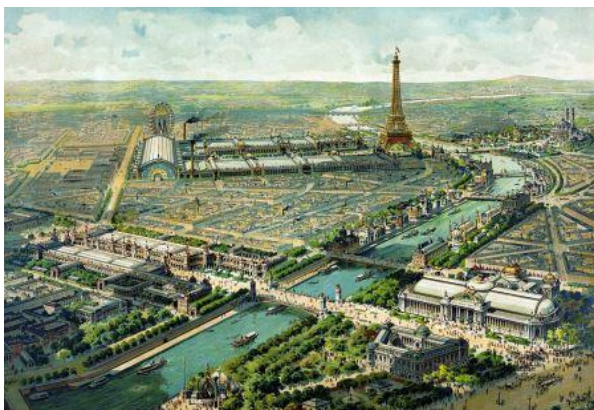
(2)ベルエポック(すばらしい時代)～ヨーロッパ諸国の一大繁栄期～

■ヨーロッパの一大繁栄期

・好景気が持続(19 世紀末から)。

・[21. 世紀末文化]…列強の主要都市では成熟した市民文化が広がる。退廃や諦念を表現したのは、近代文明の物質主義や進歩主義への批判であった。

・[22. ベルエポック]…近代文明や科学の進歩の信頼にささえられて、未来を楽観的にみる気運が強まり、大戦前の十数年間はベルエポック(すばらしい時代)と呼ばれる。



☆1900 年のパリ万国博覧会

○会場内の動力は全て電気が使われ、電気と水の宮殿など多彩な展示館が設置されて、人々は「20 世紀」を体験することになった。

○観覧車、歩く歩道、エスカレーターなどが話題になった。